

南海トラフ巨大地震等に対する神戸学院大学の行動指針（BCP）

2025年6月19日 防火・防災対策委員会

KPC・KAC周辺地域における地震発生直後	行動・制限の内容	
	大学では災害対策本部を設置し初動の指示を出す。	学生・教員等は、教室に掲げている「地震発生時の対応の手引き」に基づいてすぐに飛び出さずに、教室等建物内で待機して、大学からの指示に従うこと。 K P Cにおいては津波警報では2階以上、大津波警報は3階以上に避難し、火災発生が伴う場合は「火災発生時の対応の手引き」に基づいて行動すること。 専任事務職員は、自衛消防活動に備えて大学の指示に従うこと。

なお、KPC・KAC周辺地域で地震が発生していない場合でも、国から南海トラフ地震臨時情報が発令された場合は、下記の指針のとおりとする。

臨時情報発令時	活動制限レベル	行動・制限の内容
	レベル1（制限小）	巨大地震への備えの再確認及び地震が発生したらすぐに避難するための準備をする。 そのうえで各種活動（授業・研究・課外活動・合宿・イベント等）を実施する。
	南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）	
	レベル2（制限大）	巨大地震への備えの再確認及び地震が発生したらすぐに避難するための準備をする。 また、地震発生後の避難では間に合わない可能性のある方は1週間の事前避難を行う必要があるため、国の指示に従い行動すること。 安全のため、各種活動（授業・研究・課外活動・合宿・イベント等）の一時的な制限又は中止を検討し、大学の指示に従うこと。
	南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）	

KPC・KAC周辺地域における地震発生後	活動制限レベル	行動・制限の内容					
		授業形態 (対面／遠隔)	研究活動	課外活動他	イベント（式典・各種行事を含む）、学内会議	事務職員、教務職員等の勤務体制	構内の立ち入り
	レベル3（制限大） 巨大地震発生後、まだ巨大地震が続く可能性が高く危険な状況	休講	巨大地震への備えと避難の準備等最善の対策を行うことを前提に、研究機能の最低限の回復維持を目的に必要エリアでの一時的な立入にとどめる（危険物の管理、データ喪失の回避、サーバー維持、生物の世話など）	全面禁止	延期または中止する。	各キャンパスの保安・保全・被災者対応等、業務管理上必要最小限の業務を行う。	入構禁止
	レベル2（制限中） 巨大地震発生後、概ね一週間程度が経過しているが、インフラの回復が見込めていない状況又は多数の帰宅困難者がいる状況	休講	自宅での研究を推奨するが、代替手段もなく、重要もしくは緊急に実施すべき実験・研究等は、巨大地震への備えと避難の準備等最善の対策を行うことを前提に実施する。また、学内滞在時間をできる限り減らす。	原則、全面禁止（オンラインミーティングの推奨）	原則、延期または中止する。（オンライン会議の推奨）	巨大地震への備えと避難の準備等最善の対策を行うことを前提に、時差勤務・在宅勤務・交代勤務体制等で最低限必要な業務を優先して実施する。業務を継続するため、一部業務の遅滞、事後処理を許可する。	原則、入構禁止
	レベル1（制限小）	基本的に遠隔授業等を推奨するが、巨大地震への備えと避難の準備等の対策を行うことを前提に、実験・実習・論文指導等対面が必要な科目は、対面授業を実施することができる。	構内において研究活動を行う場合は、巨大地震への備えと避難の準備等の対策を行うことを前提に実施することができる。	原則、全面禁止（オンラインミーティングの推奨） 但し、巨大地震への備えと避難の準備等の対策を行うことを前提に、一部の活動を認めることができる。	原則オンラインによる実施を推奨する。 巨大地震への備えと避難の準備等の対策を行うことを前提に、対面会議は必要最小限で実施することができる。	巨大地震への備えと避難の準備等の対策を行うことを前提に、時差勤務・在宅勤務・交代勤務体制等で通常業務を実施する。業務を継続するため、一部業務の遅滞、事後処理を許可する。	原則、入構禁止。巨大地震への対策に注意を払うことを前提に一部の許可された施設のみの使用を認める。

※本行動指針はあくまでも指針として示すものであり、状況を総合的に検討したうえで、措置の変更や上記にない措置を判断することがありうる。
※南海トラフ巨大地震のみではなく、これに類する大規模災害はこの行動指針（BCP）に準拠する。

参考：南海トラフ地震臨時情報が発表されたら何をすればいいのか。

地震発生から 最短 2 時間後	南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震警戒)	南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震注意)	南海トラフ地震臨時情報 (調査終了)
(最短) 2 時間程度	・ <u>日頃からの地震への備え</u>の再確認に加え、地震が発生したらすぐに避難するための準備 ・ 地震発生後の避難では間に合わない可能性のある住民は事前避難 要配慮者を考慮し、事前避難を実施 	・ <u>日頃からの地震への備え</u>の再確認に加え、地震が発生したらすぐに避難するための準備 つねに家族の所在場所を把握  非常用袋やヘルメットを玄関に  寝る時は枕元にはきなれた靴を置いておく 	・ 大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う。 通学  散歩  通勤 
1 週間 (※)	・ <u>日頃からの地震への備え</u>の再確認に加え、地震が発生したらすぐに避難するための準備	・ 大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う。 通学  通勤 	
2 週間	・ 大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う。		

※ 通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合は、すべりの変化が収まってから変化していた期間と概ね同程度の期間が経過したときまで

※ ゆっくりすべり・・・ゆっくりと断層が動いて地震波を放射せずにひずみエネルギーを解放する特異な現象